

科目名	多国籍企業論特講	担当者	モロカミ 諸上 シゲト 茂登	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	2008年のいわゆるリーマンショック以来、従来の経済・市場と企業活動等のグローバル化の展開への懐疑が世界的に広まった。本講義では、新自由主義論者たちが主張してきたような一律のグローバル化が現実的でもなく理想的でもないことを主張しているハーバード大学教授のパンガジ・ゲマワット氏の著書を基礎としながら、現代多国籍企業が直面している経営環境変化と企業行動の諸課題について把握する。また、今日のビッグデータ、AI、IOT、3Dプリンティング、バイオテクノロジー、遺伝子工学等の先端技術分野の驚異的な発展にも注目しなければならない。それらを踏まえて、日系多国籍企業にとっての競争優位性があり、またサステナビリティの高いグローバル戦略の構築について考察する。		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 現代のグローバル化の特徴と多国籍企業の行動原理を理解できるようになる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 多国籍企業を巡る一般的な経営戦略課題の理解とともに、日系多国籍企業の個別的課題への応用力を高めることができるよう努力する。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 準備学習として、基本教材の精読ならびに積極的な関連文献サーベイ、企業事例の収集等を行う。1つのレポート作成にあたり文献の読み込みに25時間以上、Manaba-Folioへの提出・再提出のやり取りに20時間以上を目安とする。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 Manaba-Folioを使ったインタラクティブな添削指導を実施する。</p> <p>【学修方略 (LS)】 基本的には文献サーベイによる学修であるので、受講者による積極的なアプローチを期待する。</p>		
スケジュール	草稿に対する指導者のコメントに基づいて何度かの原稿修正を行うことになるが、このプロセスをできるだけ早く始めること。特に第1回目のやり取りで、求められる基本的なレベルや記述要領をつかむこと。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材内容の十分な理解とともに、関連文献のレビューと事例の収集が適切になされているかを基準とする。
	平常評価	20%	草稿提出から最終稿の受理にいたるまでの取り組みの姿勢を総合的に評価する。
履修者への要望	各期のレポートの草稿提出はできるだけ早く行い、双方向コミュニケーション、指導期間を確保すること。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： バンガジ・ゲマワット 教材名： 『コークの味は国ごとに違うべきか』（文藝春秋、2009年） ISBN-13:978-4163713700 1905円＋税</p> <p>本書では現実の世界には一律でフラットなグローバリゼーションが存在するのではなく、一部のグローバル市場統合と各国による諸規制とが併存するセミ・グローバリゼーションであると認識している。そこでは国境を越えることの意味や重さが改めて重視される。国の隔たり CAGE（文化、制度、地理、経済）が国際ビジネスに与える影響を見極め、またそれらを活用する諸方策が理論的、実務的に示されている。国境を越える基本的戦略である適応戦略、集約戦略、裁定戦略（AAA）が最適組み合わせられた時に、多国籍企業が最大の競争力を発揮すると説き、その実現の方向性を提示している。日系多国籍企業にとっても大変に示唆的な内容である。</p>
参考図書	<p>諸上茂登、藤沢武史、嶋正編著『国際ビジネスの新機軸-セミ・グローバリゼーションの現実の下で-』（同文館出版、2015年）、諸上茂登編著『国際マーケティング・ケイパビリティ』（同文館出版、2019年3月刊行予定）</p>
履修上のポイント	<p>世界的に著名なゲマワット教授によるテキストを通して、現代多国籍企業の行動原理と基本的戦略について体系的な理解に努めましょう。</p>
レポート課題 1	<p>ゲマワット教授による CAGE 分析、AAA 分析などを参考としながら、セミ・グローバリゼーションの下での現代多国籍企業が抱える基本的な諸課題について論述して下さい。</p> <p>留意点：基本教材だけでなく、できるだけ多くの関連文献に当たって執筆してください。</p>
レポート課題 2	<p>日系多国籍企業が一般的に抱えている経営課題を指摘して、その中から一つのテーマに絞ってより深く論述して下さい。（各自の絞ったテーマの論題を明示すること。）</p> <p>留意点：できるだけ具体的な企業事例を交えてレポートを執筆して下さい。</p>

基本教材 2	
区分	
教材の概要	<p>著者名： 諸上茂登 教材名： 『国際マーケティング講義』（同文館出版、2013年） ISBN-13:9784495646110 2,300円＋税</p> <p>90年代以降、日本企業は「技術では勝っているのに事業で負ける」と言われていることが少なくない。本書ではその構造的要因を探ると同時に、国際マーケティング視点からそうした状況を脱するための様々なアイデアを提示している。</p>
参考図書	<p>諸上茂登『国際マーケティング論の系譜と新展開』（同文館出版、2012年）3,400円＋税</p>
履修上のポイント	<p>日系多国籍企業は、新しい市場動向と技術動向を捉えた起業家のマーケティング・イマジネーションを起点とするマーケティングとモノづくりのより効率的、効果的な連携等によって、国際市場での競争優位性を獲得・維持・強化することが可能であることを学びましょう。</p>
レポート課題 1	<p>90年代以降、エレクトロニクス産業を中心に多くの日本企業が競争力を失った構造的要因について論述して下さい。</p> <p>留意点：教材の要約に終わるのではなく、できるだけ多くの関連文献を渉猟して学術的論文として執筆すること。</p>
レポート課題 2	<p>日系多国籍企業による①先進国市場の深耕、②途上国市場開拓、③BOP（最貧国市場）開拓の方策のいずれか1つについて論述して下さい。</p> <p>留意点：具体的な企業事例を交えて執筆すること。</p>